

インターネットと方言

～NETが可能にする方言同士のコミュニケーション～

井上晋介

第一企画株式会社

TV-CMプランナー／ホームページプランナー

shinsuke@po.iijnet.or.jp

TVを中心とするマスメディアの影響で

「ダサイもの、滑稽なもの」という位置に追いやられてしまった方言。

こういった見方が根強いことは、方言を売り物にするタレント、
地方CMに対するマスコミの対応の仕方などをみれば明らかである。

こういったワンランク下の言葉として方言を位置付けるやりかたを

NETを活用することによって変化させられないものか。

すなわち、すべての生活者と同義語である方言スピーカーが
生活の言葉である方言のまま自己表現でき、なおかつ異なる地域同士の

コミュニケーションが成立する場作りをNET上で実現できないか。

それに対するささやかな試みがホームページ「燃えろ！方言研究所」である。



<1>方言の置かれている位置

世間では「方言=minolityの言葉」「標準語=majolity」という認識が一般的である。

もしその通りであるならば、インターネットのようなアクセス者に広く門を開いたメディアにおいては、何を置いても標準語を用いるべきで、方言でコミュニケーションを試みることはあまり意味がないように思える。

しかし、一方で方言こそがmajolityの言葉である、という見方はできないだろうか。

なぜなら、現実として日本が各地方（東京も含む）から成り立っており、その各地方に方言がある以上、実はすべての日本人が方言を使っているという解釈もできるからである。

ここに、標準語というのは便宜上の道具として成立しているだけという考え方が成り立つ。

ところが、TVを中心とするマスメディアの影響で、道具でしかないはずの標準語が「洗練されたもの、価値のあるもの」に昇格してしまい、そこから逸脱しているというだけの理由で「生活を語れる言葉」である方言が「ダサイもの、こっけいなもの」という位置に追いやられてしまった。

このことは、方言を売り物にするタレント、地方CMに対するマスコミに興味の持ち方などをみれば明らかである。

<2>ホームページ「燃えろ！方言研究所」とは

インターネット、分けてもホームページが、個人の意見を広く一般に表明することを可能にするものだとすれば、そしてそのことに価値を認めるとすれば、その意見はより生活に密着した言葉である方言のほう望ましいとは言えないだろうか。

方言を一步下がった所に位置付ける見方を変化させ、個々の方言ユーザー（これはとりもなおさず生活者ということである）がプライドを持った上で方言を使用できる場を提供したい、という目的でスタートさせたのがホームページ「燃えろ！方言研究所」である。リアルオーディオを中心にした新手のエンタテイメントとして紹介されることが多い当ページではあるが、究極的には個々の方言ユーザー（＝アクセス者）の自己表現の場作りが目的である。

こういうホームページを作ろうと思ったきっかけは、私自身大阪出身にも関わらず、東京で標準語によるTV-CMを作っているところからくる違和感、居心地の悪さが原因となっている。それなら、大阪弁でTV-CMを作ればいいようなものだが、マスメディアで大阪弁を使うことは「道化」になる覚悟がいる（吉本興業、金鳥のCM）。そこで着目したのがインターネットであった。私にとってはCM表現における欲求不満の解消がインターネットに繋がっている。

<3>方法論

～第1段階～

以上のような理念と目的があったところで、現実「燃えろ！方言研究所」にアクセス者が増えないことには何の意味もない。そこで、まず人を集めるために、マスメディアによって作られてしまっている現在の方言イメージつまり「ダサイもの、こっけいなもの」＝ギャグの対象、を逆に利用することを考えた。

1. 方言による連載小説の朗読
2. 各地の会話（男女）によるミニミニコント
3. ひとつの言葉の変化例（5ヶ所）

こういったものをおもしろがってしまう感性はマスメディアと共存している現代人である以上いたしかたない。ただし、あくまで誘い水であり。真の目的はそこにはない。

～第2段階～

これらの小説、各地、変化に刺激されたアクセス者に自己表現してもらう場の提供。

これが「方言で放言」というコーナーに当たる。

単なる掲示板と言われるかもしれないが、方言で生活を語ってもらうところがミソ。

現実に寄せられた投書をいくつか紹介しよう。

●北海道のなかでも、うちら函館の人の言葉って札幌とかさ行ってもぜんぜん通じないっさ。いっつもなしてだべって思うっさ。たまにばがにされるときあるけど、そういうときはがつつりむかつく。あと内地の人達もあまり好きでない。特に東京の人。あれば見でれば、いっつもはんかくせーなっと思うもの。したらね。(北海道 男 19才)

●遠距離の彼がきんのうまで来てくれとったもんで、どえらい嬉しかったんやて。今度はこっちが行く番やけど、「待っとるで、はよこや～よ！」とゆってくれた♪もう待ちきれへん!!
(岐阜県 女 28才)

●こら、ガキ!「あのおばちゃん、お菓子こうてる」言うな、アホめが。私は20代や! おい、ガキのおかん、もっとしつけせえよ。こーんなにキレイで上品なおねーさんに向かって失礼やんけ。あー、暑い。おい、夏! 暑すぎるわ、ちょっとかげんしてえな。(大阪府 女 29才)

●うちの彼氏ぶり心配症じゃけー、うちが友達の家遊びに行っただけでバリはぶててから、こっちまで機嫌が悪くなるんよね。もう、ええかげんにしんさい!! (広島県 女 21才)

●あーあ、ワシ資格試験受けたんじゃけど、今日、ハガキがきとって「不合格」ででかい文字でかいとった。なんでおちたんじゃろか? いなげな問題だすけんじゃ! (愛媛県 男 25才)

●あー、もうっ!! なしこん学校テストの小やんおそかとー? がばムカツク!! 他ん学校とか、もう夏休みになっとなるっちゃろー? (佐賀県 女 19才)

～第3段階～

さらに考えていのは異なる地域同士のコミュニケーションである。

インターネットである以上発信だけでなくコミュニケーションまでもっていくべきだし、生の言葉同士がぶつかった時に起こる現象は標準語同士よりスリリングである。

「方言で放言」コーナーでたまたま成立していた会話を紹介しよう。

●うちは、さみしがりのやの広島ギャル。ワイルドな交際をしてくれるホットな方、募集!! 私に会いたければ、明日、月曜日にパルコの前の不二家の前で、花束を持って待っててね。もし、本当に来たら、いいわよ!! 18時ね。(広島県 女 18才)

●わしゃー、28歳の無職君でーす。趣味は、パチンコ!! フィーバーさせれば日本ー!! 明日、広島のパチンコ屋に荒らしに行くけん、18時に本通りの不二家前でバラの花100本持って、まっとう。楽しみにしときんさい!! (愛媛県 男 28才)

●おみやあら! いい加減にしにやあといちやあぞー! ああしたほうがいいんだら。しにやーだったら、豆腐のこぼちよに頭ぶっつけろ。(静岡県 男 21才)

＜4＞インターネットと方言

インターネットは世界的なコミュニケーションを可能にした。その意味では、標準語の必要性をますます高めた（世界規模で考えると英語の必要性をますます高めた）ことは間違いない。

しかし、一方で、インターネットは個人の情報発信を可能にした。結果、方言に日の目を見るチャンスを与えた、とも言えるのではないだろうか。

不特定多数とのコミュニケーションを目指すのもメディアの役割なら、生の言葉をバイアス無しで伝えるのもメディアの役割である。この観点でインターネットを捉えることも実は重要なことなのではないだろうか。

(完)